

つながる人の和 復興プロジェクト気仙沼 ニュースリリース vol.53 震災から8ヵ月。移ろう四季の中で。

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 (会長 若林恭英/所在地 東京都新宿区/以下 SVA) は、宮城県気仙沼市に拠点を置き、壊滅的被害をもたらした東日本大震災の被災者支援を行っています。

木の実を使って遊ぶ

11月15日は、気仙沼市本吉町の大谷(おおや)小学校での授業「あきのあそびのかい」に参加してきました。今週で2回目となるあきのあそびのかい。大谷小学校の近くには、特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会とSVAとで協力して、子どもの遊び場を運営していることもあり、普段から遊び場に来ている子どもたちも多くいます。

この日は、先日の授業中に遊び場で子どもたちが拾った松ぼっくりやどんぐりで作ったおもちゃを実際を使って遊びます。どんぐりを投げて的に入れる「どんぐりロケット」やひもの先に磁石をつけて木の葉を釣る「木の葉釣り」等いくつもの遊びがあり、子どもたちは思い思いのまま遊んでいました。

参加したボランティアの学生の話によれば、子どもが折り紙をプレゼントしてくれた際に「ありがとう。うちに持って帰るね。」という「うちあるの?」と訊ねる子どもの言葉に考えさせられたといいます。震災から8カ月経ち仮設住宅に住む一方で、仮設住宅はあくまで仮の住まいであって以前に住んでいた家とは別のものであるのかもしれませんが。来週の授業では、子どもたちが作ったおもちゃで大谷幼稚園の子どもたちと一緒に遊ぶことになっています。



木のツタを使った輪投げ遊び

復興の歩みは一人一人の歩みから

11月14日は、気仙沼市本吉町にて「秋のウォーキング交流会」が行われました。ウォーキング交流会は、過去2回行われ、今回が3回目です。近郊から来た参加者やスタッフも含めて集まった人々は約30人。往復約17kmのコースは「本吉公民館」から牧場である「モーランド本吉」へと向って歩きます。道中、海から4km以上も離れた内陸の歩道を歩きながら「この辺りまで津波が来てたんだよ。」と震災当時の話も出ます。片道約7.5km歩いて到着したモーランド本吉では、モーランドで飼育されている牛から搾った牛乳や牛肉を使った芋煮を集まった参加者にふるまわれました。ウォーキング交流会の主催者の1人であり、市内の津谷地区を地域内から支援しているSさんの話によれば、「震災があり、今年は多くの方が避難所や仮設住宅で過ごしていて、運動不足になりがちだから」と今年も

開催しようと思ったそうです。Sさんは、避難所があった震災当時から物資などを集め、今も地域の仮設住宅や在宅避難者への支援を続けています。SVAとしても、こうした地域の人と共に復興へ向けての歩みを続けてまいりたいと思います。



(写真左) 歩く参加者たち
(写真右) 昼食の芋煮の様子

本件に関するお問い合わせ先

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 (SVA)
〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2、3階
Tel:03-6457-4586 FAX:03-5360-1220 E-mail:pr@sva.or.jp 担当:鎌倉
<http://www.sva.or.jp/>